

介護老人保健施設 ライフサポートひなた

和田祐子、島津洋子、小林紀子(居宅介護)

功 績 新型コロナウイルスが、2月に感染が確認され、医療現場はもとより高齢者介護施設でもクラスターが発生し、また医療用具の不足は、日々ニュースで取りざたされています。当施設でも防護服、医療用の防護マスクは不足している状態でした。そんな中、居宅のスタッフが、フェイスシールド(医療用の防護マスク)を作り、提供してくれたことで、医療用具の不足による感染があるかもというスタッフの不安を軽減した功績。

推 薦 者 中島 佳子(入所看護師)

推 薦 理 由 居宅のスタッフは、利用者さんの笑顔を大切にと頑張っています。今回、フェイスシールドを作成、提供という事で、感染するかもしれないという不安の軽減、安心感を施設スタッフ与えて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。今回理事長賞に推薦させて頂きました。

内 容

新型コロナウイルスの感染対策は、入所している方々が高齢である事と、基礎疾病がある事で、感染した場合のリスクがもっとも高く、重要視されることです。感染予防の基本は、ウイルスは粘膜(眼、鼻、口等)から体の中に持ち込まれます。手洗いしない手で眼や鼻、口に触れるのを避けなければなりません。

ひなたでは新型コロナウイルス感染対策マニュアルを作成し、万全の注意を払い業務にあたっています。

マスク不足は改善されてきているものの、依然防護服、フェイスシールドは不足の状態です。

フェイスシールド作成の経緯は、地域の病院でコロナ感染者が確認され、地域のボランティアでフェイスシールドを作成し、病院に寄付をしました。このボランティアの中に居宅の島津が参加していました。島津は自作のフェイスシールドを職場に持ってきて、居宅スタッフで共有して、施設で不足している、もっとも感染を防ぐ事に役立つフェイスシールドを作成することにしました。日々の業務をこなしながら作成し、施設の各部署に提供しました。作成にあたって大変だったのは、部品集めでしたが、100均や文房具屋をまわり、高透明のファイル、子供用のベルト、テープ等、どこも不足しているため、お店でも品切れで何度もお店に足を運んで集めました。